

令和2年度 山形県図書館協議会 新計画に関する委員の発言概要

日時：令和3年3月22日（月）13:30～15:30

場所：「遊学館」3階 第1研修室

【情報発信について】

- ・参加者がときめくようなイベントを多く開催してきたと思うが、そのときめきがうまく伝わっていない。周知広報に更に力を入れるべき。
- ・学校図書館との連携の関連で、一括貸出やセット貸出の説明があったが、セット貸出の開始の案内は見た覚えがある。周知を図るためのアナウンス活動が大切。
- ・情報があふれている中で、興味のある人しか必要とする情報を探せない。そもそも図書館に興味がない場合には図書館の情報が入ってこない。
- ・子どもたちや大人世代もよく使っている YouTube では、月数万円程度で、県内の人だけとか、特定の年代とか、ターゲットを絞った広告ができる。地域には若いマーケティングがたくさんいるので、そのような若者も活用しながら情報発信していくと若者たちも図書館に興味が出てくるのではないかと思う。

【企画展示・イベントについて】

- ・県立図書館で開催されている企画展示について。本1冊1冊でなく、共通する本をたくさん置いて、その本と本との連携、関連性の中から新たな価値が出てくる。どんどん企画し、取組みを続けて欲しい。それをもっと発信するとともに、本の大切さや本の価値、図書館の便利さなども発信して欲しい。
- ・コロナ禍の中、県立図書館は、安全安心に県民へ資料を届け、また、安全安心な施設でイベントを実施していると感じる。
- ・県立図書館だからこそできる横の連携や施設・機関との連携等を企画し、図書館のハブ的な役割を担いながら県民に発信しているところは良い。

【資料の収集・活用について】

- ・資料収集について。図書館の役割・ベースになるのは図書資料の収集・蓄積。特に県立図書館のような基幹的な図書館の場合は、流行りの図書だけでなく、後世に残り、役立つような資料を目配りして収集するのが大きな役割になってくる。
- ・図書の購入費用は必ずしも潤沢ではないと聞かすが、制限があるならなおさら、資料に対する図書館側の「目利きの力」が求められる。資料収集について、山形ならでの、郷土にとってこれから必要になってくるような図書を、方針を明文化し、しっかり集め、蓄積して欲しい。
- ・インターネットの活用とか、新しい生活様式の中で、電子書籍の貸出が他県では始まってきているが電子書籍に対する進め方は。

【市町村図書館等との連携について】

- ・市町村図書館で、県民に対して県立図書館を紹介する時に感じるのが、県立図書館が遠いということと、利用者カードの新規手続き等について説明が難しいということ。例えば県立図書館が各地区を巡回し、出前オリエンテーションのようなことを実施できないか。その場で利用者カードが作れるとか、そのカードを使いインターネットから予約できる等の説明ができれば、県民の利便性は非常に高い

【ICT 活用・デジタル化について】

- ・図書館におけるボランティアの状況について。市立米沢図書館ではデジタル化をボランティアの方々から関わってもらって進めている。
- ・郷土資料のデジタル化やデータベース化について。国が進めている「ジャパンサーチ」は、全国の図書館や博物館等が連携し、そのデータベースを検索できる仕組みとして始まっている。県立図書館が連携すれば、貴重な郷土資料を多くの方が利用できる。
- ・教育現場ではギガスクールの取組みが始まっている。電子的なコンテンツとして、図書館の郷土資料等を活用できないか。